

公表所管課長 様

政策推進課長 安田 司

会 議 要 録

名 称	第1回西予市総合計画審議会	
事 務 局	西予市 政策企画部 政策推進課 政策・行革係	
	電 話 0894-62-6421	
	F A X 0894-62-6501	
開 催 日 時	令和8年4月17日(金) 13:30~16:10	
開 催 場 所	西予市役所 5階 大会議室	
出席者	委 員	西予市総合計画審議会委員 井上廉、宇都宮久見子、宇都宮正和、大氣新平、 小川広幸、甲斐朋香、片山恭二、シーバース玲名、 津田一樹、中川裕子、西村勝志、古本陽一、山下昌和
	西予市 (事務局)	管家一夫(市長)※諮問後途中退席 原井川英一(政策企画部長) 安田司、周藤功治、河野温、藤田早紀、立花将大(以上政 策推進課)
議事内容(要旨)	<p>1. 開会 定足数に達していることが報告され、事務局の司会進行により開会した。</p> <p>2. 委員委嘱 代表して、井上廉委員が、管家市長から委嘱状の交付を受けた。</p> <p>3. 市長あいさつ 管家市長から、長期間の審議となるが、全市的・大局的な視点、未来志向の視点で率直な意見を求める旨の挨拶があった。</p>	

4. 委員等の紹介

事務局より委員の紹介、各委員からの自己紹介があった。

5. 会長及び副会長選出

会長に西村 勝志 氏、副会長に宇都宮 久見子 氏が選出された。

6. 諮問

管家市長が、第3次総合計画の基本構想及び基本計画について、西予市総合計画審議会に諮問を行った。

7. 協議

(1) 第2次総合計画の振り返りについて

(事務局) 第2次総合計画のふりかえりについて、イラストを用いた資料、通知表形式の資料、レポート形式の資料を用いて説明。

(委員) ふりかえりにイラストがあることでイメージを限定してしまう。また、物語調で書かれているが、文章が偏っていたり、細かすぎたりするところもあると思った。

(事務局) AI と対話しながら修正はしているが、皆さんが見てその通りだなと思うところまではできていない。5月末に公開したいと考えており、100 ページ近い報告書ではわかりにくいと考え、イラストでわかりやすく説明するために用意した意味があるので、ご意見いただきながら修正していきたい。

(委員) 皆さんそれぞれの考えがある中でイラスト1枚にまとめるのは無理があるのかなという気がした。

(委員) イラストがあることでイメージが分かりやすい。興味がある人からすれば違うと感じられる部分もある。できなかった部分がはっきりして、それを見極められるものであれば良い。

(委員) AI は有料版を使ってほしい。

(事務局) 事務局のみ有料版を使用している。

(委員) ふりかえり資料についての審議会での協議事項は何なのか。

(事務局) 第2次総合計画のふりかえりを踏まえ、第3次総合計画の策定に取り組んでいる。この審議会では、第3次総合計画の内容を十分に審議いただきたいと考えていることから、ふりかえり資料については、第1回でしか取り

扱わない。市民目線で見えていただいた時に、工夫できる点や分かりやすくなるための点についてご意見いただきたい。

(委員) 簡略なものが重要と思う。

(委員) 財政危機脱却プランもそうだが、すべて情報としては出すべきと思う。

(委員) 資料6の公開の仕方はどういったものなのかが分かりにくかった。行財政の所が全体的に暗い。前向きになるための土台とするため、ここまで暗くなくてもいい。資料7について、乖離が大きい点について包括的なコメントがあると良い。資料8について、84ページの職員アンケートや総括等について新しい発見だった。

(事務局) 今後の体制をどうするか等の具体的な話については、審議会を踏まえて内部で検討する。第3次総合計画は形骸化しないよう、早めにお示ししたい。

(委員) 資料7について、内部評価に対するコメントであることをわかるようにすべき。「まちづくり」について、内部では進んだという評価が出ている。評価軸が異なると甘めに出してしまうことがあるかもしれない。

(委員) 資料6について、資料7と資料8のどの部分のことなのかが分かりにくい。

(事務局) 資料8の基本構想部分について、イラストを用いたものを作成した。

(委員) 資料6は、HPに出るのか、周知方法は。それによって変わる。

(事務局) 5月末にホームページで公開するように考えていた。広報については、紙面の関係で全部は見せられない。何らかの形で広報に掲載する形を考えたい。

(委員) 高齢の方が多く、文字が小さいと見てもらえない。地域づくり活動センターに1、2部おいていただけると良い。

(委員) 第2次総合計画で謳われていることが出来ていない部分が多くある。審議会の役割として、何を審議して良いのかわからない。

(事務局) 職員で組織しているワーキンググループは昨年7月から活動を開始した。職員で第2次総合計画をふりかえり、何ができて、何が出来なかったのかを分析した。できた場合はどれだけ効果があったのか、できなかった場合はなぜなのかという話もした。審議会の回数が限られてお

り、未来のことについて話をしていただきたい。市民の方にも、できたこと、できなかったことをわかりやすく示したい。

(委員) 基本的に西予市は人口減少という大きな課題、西日本豪雨等もあり、コロナもあり、それらを見捨てることはできず、財政調整基金の枯渇もテーマとしなければならない。財政が厳しい中で、どう事業を展開させるべきか、高所な部分で意見を述べるという共通認識を持っていただきたい。本日のメインは、基本構想。第2次総合計画のふりかえりを行いつつ、未来を思い描きながら判断するのが自然な流れ。

(委員) 財政調整基金とは何かというのが分かりやすいようにしてほしい。県内でどれくらいの順番にいるのかが分かるように。資料7について、1点から5点がどういう状況なのか示してほしい。

(委員) 他の委員からの「絵で理解しやすい人もいれば文字が小さいとわかりにくい人もいる」という意見について、コミュニケーションの仕方として、チャットボットを作る、ラジオで流す等、コミュニケーションの1つとして活用できる。まちデザインについて、気づきがあった。詳細レポートについては、全体での表現としては間違いではないが、対象地区まで情報があれば、舞台のイメージができる。

(事務局) 事務局でも、Google の NotebookLM を活用している。HP に公開するタイミングで、そういったことも検討する。

(委員) 資料6の①と①'がどう違うのか一言示すだけでもわかりやすくなる。

(委員) 総括も入れて頂きたい。このイラストを活用し、5町を回るなど、市民全員に意識を持っていただくくらいの熱意ある取り組みをお願いしたいと考える。その際、すべてを職員の皆様だけで担うのではなく、市議会での説明に加え、西予市に関わる各種団体や民間企業、学校などの代表者へ広く共有し、それぞれの協力を得て市民に広く伝える。そして、市民のみなさまが「自分に何ができるか」を考える機会をつくることが重要だと思う。こうした理解と行動を広げていく取り組みこそが、西予市の発展につながるものと考えている。

(委員) マンパワーも限られているので、やれることはやるという精神でお願いしたい。

(2) 第3次総合計画の基本構想(素案)について

(事務局) 第3次総合計画の基本構想案について、新旧対照表、基本理念や西予市綱領八策についてのスライドでの資料および基本構想の素案の本文を用いて説明。

(委員) 第3次総合計画策定方針の中に「縮充」という言葉があるが、どこにどう反映されているのか。

(事務局) 選択と集中、身の丈に合った事業展開というところに表れている。また、コンパクトシティという分野も含まれているが、次回審議会で具体的な説明を行いたい。「縮充」を頭に入れながら基本計画の素案を作成している。

(委員) テーマとして、「しなやかな～」というのが他人事に見える。しなやかという表現もどうとらえたら良いかわからない。身の丈に合った、などのわかりやすい表現にしてほしい。

(委員) しなやかに、の部分は良いと思うが、基本理念が切羽詰まっている印象がある。

(事務局) 初めて示したたたき台なので、調整していく。社会変化の中で、様々な課題が出てきている。受け流しながらも芯は立てないといけないという意味でのしなやか。基本理念との整合性は取っていききたい。

(委員) 従来の改革が柔軟性に欠けていた反省から、しなやかという言葉が出たと思っている。簡単におれない、芯のある改革の表れだと思う。

(委員) 基本理念は考え方の根幹となり10年間言い続ける大事なもの。「常に危機感」は「自分事化してまちと関わる」、「常に一步先行く」は「他市町での取組みめ広い視野を持ち取り組む」といったポジティブな表現にならないか。また、西予市綱領八策はピンと来なかった。綱領八策という言葉にこだわりがなければ、簡単な表現にしてほしい。

(委員) 第2次総合計画の本旨の部分は否定する必要がなかったので継承している形と思う。職員の思いの表れと受け止めた。

(委員) 同じ受け止め方をしたが、市民が他人事化してしまう恐れがある。

(委員) 自助、共助、公助がある。行政中心でやってきたのがどうなのかという面もある。様々なステークホルダーと協創して、一緒にやっというスタンスがあるのではないか。期待が大きければ、不安は市民に帰ってくる。強い意志と情報の共有。開かれた審議会にして、市民の方にも見てもらいたいという会議もその表れ。

(事務局) 公にする形は今回が初めて。皆さんの意見を取り入れながらより良いものを作っていきたい。

(委員) 一番重要なのは財政。財政危機脱却プランを見ていただき、財政のことは意識していただきたい。

(委員) その意見とは反対。財政危機脱却プランがあるので、危機意識のような言葉が出たと思う。

(委員) 資料 9-1 の「地域の宝を活用し」について、再発見という言葉がある。人的資源もある。この地域にまだ眠っている資源もある。未来をどう模索できるかを表そうとしているのではないか。財政面も無視できない。3年後に16億必要という部分もある。市民の方の期待感も見せないといけない。職員給与の削減も検討されたという厳しい部分も受け入れたうえで、それが基本構想に表れないといけない。

(委員) 資料 9-1 について、社会移動の部分がすごくいい。Uターンだけではなく、Iターン、Jターンも入れてほしい。産業・雇用創出の部分のクールで稼げる仕事はどういうことかわからない。1次産業が脚光を浴びやすい部分もあるが、イメージを持ちやすい表現にしてほしい。いろいろな働き方の発想で議論できれば良い。

(事務局) 全体的に、本当にできるのかという部分も含まれている。活動センターがこんなに役割を担えるのか等、できるのかという意見や、市としてももう少し高い目標を、という意見もいただきたい。

(委員) すべての委員の意見をお聞きしたい。基本理念や八策は賛成。危機感を持たないと何もできない。このまちでは町並み保存ができないと言われた。ネガティブなのはだめだが、危機感を持たないといけない。ふりかえりでも危機感のキーワードがあった。イメージしやすい表現にしないと動きにくい。インフラや人口減少を全施策で考えるべき。

(委員) 第2次総合計画のふりかえりがあって、第3次総合計画となるので、第2次総合計画でここはできた、でき

なかったという部分がある。ふりかえりとの対応関係が見えてくると、市民の方の満足感も増す。しなやかというキーワードは良いが、誰が何をするという言葉を入れても良いと思った。

(委員) 危機感という面では、危機感という言葉を残しつつ、市民が自分事と捉えられる表現にしてほしい。龍馬と言われると、高知のイメージがある。みなさんが一緒になって考えられる表現に変えると良い。

(委員) 物語調で書いてあることは良いが、文章に親しみを持ってない。筋肉質という言葉がよく出てきて、長い割に分かりにくい。

(委員) 全部が夢物語ではだめ。未来を見据えたいうで、市民の方が見たときに、何をすればいいのかわかりにくい。

(委員) 市民の方が一番注目しているのは財政。市民の方がどういうイメージで見ているのか。第3次総合計画を立てる上で、市民がどういう目で見ているのかは意識しないといけない。削るだけで、明るさが見えないという市民がいるのも事実。明るさを持って、市民の感覚をベースに考えるのが大事。

(委員) 基本構想の中で、大きなテーマを明確にしておきたい。

(委員) 第2次総合計画でうまくいかなかったものは、第3次総合計画でもうまくいかない。

(委員) (綱領八策の) 八は良い数字。やらないといけないことは残すべき。文章が難しい。中学生くらいが理解できるようにしてほしい。

(委員) 小学校5, 6年生が分かるものはみんなわかる。

(事務局) 分かりやすい表現に内容を見直してみる。

(委員) 次回以降、具体的なデータをもう少し見たい。

(委員) 他の委員の方から、小学校5・6年生にも伝わる言葉で書くというご意見があり、大変良い視点だと感じた。その延長として、「こども新聞」のような形で発信することも有効ではないかと考える。学校での議論を通じて家庭内での対話が生まれ、大人も含めて考えるきっかけになるのではないか。加えて、子どもたちは本計画の目標年である9年後には大人になる。子どもの頃に触れた計画が、その後どのように実行されたかを自ら考える契機となり、将来のまちづくりの担い手を育てることにつながると思う。

	<p>(委員) 次回に向けて、資料 9-1 社会インフラ・環境に対して、資料 9-3 では、環境衛生、ごみだしなどの記載があり、一貫性が見えない。プロジェクトマネジメントについても聞きたい。</p> <p>(委員) 無理とは思われず、夢を描けるような形での表現を考える。</p> <p>8. その他 第 2 回および第 3 回の会議日程について調整を行った。</p> <p>9. 閉会 以上をもって閉会。</p>
備 考	